

☆特集 第50回「ふくしま国体」

☆特集 第31回全国身体障害者スポーツ大会
「うつくしまふくしま大会」

☆特集 53'全国高等学校総合体育大会



感動、感激の6日間

—地元の応援に支えられての総合2位—



会長
三浦 勝美



理事長
平石 家治



総監督
深谷 秀三



はじめに

国体の過去の成績で入賞がわずか2回しかない福島県が、地元開催の国体で勝つことができるかは夢のような話でありました。逆に言えば、福島県の卓球が強くなる千載一遇のチャンスであります。この機会を逃しては、いつまでたっても卓球後進県の汚名を晴らすことはできないと考え、卓球協会の総力を挙げて、努力して参りました。

強化のねらいを

○ふくしま国体総合優勝を目指しての強化

○ふくしま国体を通過点としての継続的な強化

の2点に絞り、強化組織の整備・拡充・強化費の捻出、有望選手の発掘、協力企業への依頼など、やらなければならないことが山積みしている状況での出発でありました。

そして、平成7年10月、天覧試合の栄誉もあり、感動、感激の6日間を迎えることができました。

強化の歩み

思えば10年前、昭和70年に福島県で開催される国体で勝ちたいという願いで強化が開始されました。

少年の部の選手を育て上げるためには、10年の歳月が必要と考え、県内の各種卓球大会に小中学生の種目を入れて開催することにしました。とにかく、未来の国体選手の掘り起こしと経験を積ませることが目的でした。昭和62年からは、県卓球協会主催の小中学生の強化練習会を2か月に1回実施することにしました。この強化練習会の結果をランキングで表し、ランキング上位の選手を合宿や県外遠征に参加させる方式をとりました。その後高校生も組み入れられ、小中高校生選抜強化リーグ大会と名称を変え、ランキング順に8名のリーグ戦で戦う方式で現在に至っています。その結果、国体の少年の部の選手はもちろん、成年1部の選手のほとんどが、小中高校生の強化練習会育ちで占められています。優勝はできませんでしたが、総合2位と満足のいく成績を収めることができました。

○男子の強化の取組み

少年男子は精力的に合宿、遠征を繰り返し、その反省の上に母体コーチとの連絡を密にして進めてきました。

平成7年2月に中国選手を招へいして合同合宿を実施したのは効果的でした。卓球は、ダブルスの勝敗がチームの勝敗にも影響するため、特に、ダブルスの練習に重点を置きました。その結果、少年男子は、成年男子と五分の試合ができるようになり、本大会でも見事なチームワークで、チームの勝利に貢献しました。

○女子の強化の取組み

少年、成年ともに候補選手の実力が伯仲し、選手選考が大幅に遅れました。成年は、5月の選考会で、少年は、7月の県総体の結果まで待ち、ダブルスの組合せを重視した選考になりました。少年、成年ともに男子と同様に試合の要ともいえるダブルスの強化を重視した合宿を開催してきたことにより、全国の強豪と戦える手応えを十分に感じました。また、強化の進捗状況を確認するため県外遠征を計画的に実施してきたことが功を奏しました。

計画された強化合宿や県外遠征を順調に消化し、いよいよ国体が始まるときに、総監督からの激励は「地元の熱狂的な応援を味方につけよう。」ということでありました。監督・コーチの献身的な努力と卓球愛好者や地元の方々の応援が、選手のがんばりとなり、好成績で終了できましたことは望外の幸せであります。

ふくしま国体での活躍

《少年男子》

高校生の強化は、小中学生の強化の発展的な形で、平成2年から本格的に始められました。その年度

【少年男子】



監督
鈴木 一吉
福島工業高教員



コーチ
落合 茂幸
桜の聖母学院高教員



コーチ
渡辺 俊雄
福島工業高教員



コーチ
木村 哲也
小高工業高教員



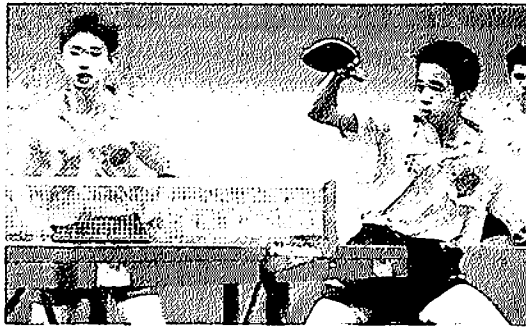
選手
渡辺 和幸
帝京安積高3年



選手
遊佐 充裕
小高工業高2年



選手
馮 海濤
原町工業高1年



少年男子ダブルス 遊佐・渡辺組

の国体強化とふくしま国体候補選手10名が、強化の中心となりました。最終的に、遊佐充裕（小高工高）渡辺和幸（帝京安積高）永山健一（磐城高）に中国人留学生・馮海涛（原町工高）の4人に絞られました。

24チームを8ブロックに分けての予選リーグが10月15日開始されました。初戦の富山県を3-0で破り勢いがつきました。第2戦は、三重県との対戦、渡辺がエースの佐野に快勝し、3-1で勝ち、ベスト8に進出しました。決勝トーナメント1回戦が、強豪埼玉県です。埼玉大深谷

高を中心に中国選手が、加わっています。予定通り馮が2点を取り、2-2でラスト遊佐と黒川（埼玉大深谷高）の対戦となりました。激しいラリー戦となりましたが、福島県選手として誇りと自信があらわれた試合運びで勝利を収めることができました。会場はまるで優勝したかのごとく熱狂の渦に包まれました。準決勝では惜しくも高知県に破れましたが、観衆に感動、感激を与え、見事ベスト4に入賞することができました。

《少年女子》

少年女子は、有望視された種別でありました。しかし、組合せは、最も条件の悪いものになりました。24チームを8ブロックに分けての予選リーグは、白鷗女子高の神奈川県とカット打ちのうまい選手のいる北海道です。しかも、福島県全チームの中で最初に試合をすのが少年女子であり、天皇、皇后両陛下のご観戦になる試合でもあって、選手は、大きなプレッシャーを感じて戦わなければなりませんでした。

【少年女子】



監督
熊谷 勝明
帝京安積高教員



コーチ
鈴木 是行
磐城一高教員



コーチ
桑原 要勝
安達高教員



選手
藤田 山希
安達高3年



選手
根本恵美子
郡山女子高3年



選手
高橋美貴江
安達高1年

本県チームは、藤田山希、高橋美貴江（安達高）に根本恵美子（郡山女子高）高橋美智子（安達高）の布陣で臨みました。初戦は北海道と対戦しました。1番藤田が順調に勝ち、2番高橋は、1年生とは思えない自信満々のプレーで相手を圧倒、ダブルスも順当に勝ち、3-0で勝利を収めました。この勝利が、他種別の福島県選手をどんなに奮い立たせたか計り知れないものがあります。波に乗った本県チームは、その後、強豪神奈川県をも破り、見事ベスト8入りを果



少年女子ダブルス 高橋・根本組

たしました。決勝トーナメントでは、優勝候補の大阪府と対戦し破れはしたものの、1番で根本がインターハイ2位の辻本を破り気をはいたことは、すばらしい成果であり、チームワークの良さの現れであると言えます。

あの日 あの時

長い長い花道 ～舞台にあがるまで～

少年女子選手

藤田 由希

全ては、大きなプレッシャーから始まりました。中学生の時に「ふくしま国体」が、丁度、自分が高校3年生の時に開催される事を知り、進学も自動的に県内という事になりました。数年もの間、全ての事が国体に関連づけられ、インタビューでの「国体では？」の質問も慣れたつもりでいました。

しかし、刻一刻と本番が近付くにつれ、『優勝』という他の大会ではそんなに気負う事のない2文字が毎日のように自分を憂鬱にさせました。合宿中に精神的に追いつめられて、何度泣いたか分かりません。国体にかかる準備期間が長ければ長い程、それにかかる気持ちは自分でも驚く程、計り知れない

くらいに張りつめていたのです。国体本番では、悔し涙、嬉し涙、そして最高の笑顔を残しました。卓球競技少年女子のメンバー4人は、全て福島っ子です。体がボロボロになっても、心に雨が降っていても、いつもお互いに肩をかし合って歩いて来ました。結果的に優勝はなりませんでした。貴重な経験でした。最後に福島県民である事を、嬉しく誇らしく思います。



少年女子 藤田選手

《成年男子1部》

実業団チームや大学選手でかためる強豪チームそろいの成年男子1部は、16チームを4ブロックの予選リーグ戦で行われました。本県チームは坂本憲一（日産いわき工場）、原 晃（東京電力福島第二原子力発電所）、深谷亮幸（筑波大大学院）、岩本爾郎（野田中教員）で構成されました。

【成年男子1部】



監督
柴田 広道
プロショップピンポンバク



コーチ
田子 光政
田子燃料店



選手
坂本 憲一
日産自動車(いわき工場)



選手
原 晃
東京電力福島第二原子力発電所



選手
深谷 亮幸
筑波大大学院



コーチ兼選手
岩本 爾郎
野田中教員

予選リーグは、シードの滋賀県他、山口県、新潟県との対戦でした。10月17日の第1試合、山口県には3-0で圧勝し、同日新潟県との第2試合に臨みました。是非勝ってベスト8を確実にしたい試合であるにもかかわらず1番原が新潟のエースと死闘の末、1-2で惜敗したのがひびき、2-3で破れてしまいました。

10月18日に対戦した滋賀県は、びわこ銀行勢でかため、昨年のわかしゃち国体2位の實力を持つメンバーでした。本県は、滋賀県に対する勝算は低いと読んでいたため、入賞を逃したあきらめが選手団全体に漂い始めていました。しかしながらまず坂本が平を2-1で破り、次に深谷が地元の応援を味方につけ田原を2-1で破ることができました。再度4番に出場した坂本が、田原に対戦し、接戦の末3セット24-22で破り、見事目標のベスト8を勝ち取りました。



成年男子1部 坂本選手

あの日 あの時

国体が終わって

成年男子1部選手

原 晃

数年前から候補選手となり、これまで以上に練習に熱が入るようになりました。家族も国体に出場できるようにと協力してもらいましたが、毎週のように遠征や合宿で留守にすることが多くなると、家庭内の雰囲気が悪くなっていくのがわかりました。多少の犠牲は覚悟していましたが、予想以上でした。

今年になり、指定選手に決定してからは、家族も「あと少し」と辛抱してくれるようになりました。

国体本番では、家族が応援に駆けつけ、たいへん心強く、がんばることができました。

今回、国体に出場するために迷惑をかけてきた、家族や職場、周囲の方々に協力していただき大変感謝しています。

国体が終わり、今までのいろいろなことがいい思い出となりました。

「ありがとうございました。」

《成年男子2部》

開催県としてふさわしい成績を収めるためには、2部の上位入賞が必要でした。選手の構成は、川村

【成年男子2部】



監督兼選手
横山 廣昭
カノー商会



コーチ
佐藤 敏行
飯沼中教員



コーチ
平石 秀樹
須賀川信用金庫



監督兼選手
富岡 成一
阿部商事㈱



選手
川村 公一
日産コーエーいわき店



選手
小塩 浩
須賀川信用金庫



成年男子2部 富岡選手



成年男子2部 小塩選手

公一（日産コーエーいわき営業所）、小塩 浩（須賀川信用金庫）に壮年富岡成一（阿部商事）、橋本彰夫（好間高教員）、横山廣昭（カノー商会）です。

出場チーム10チームを2ブロックに分け、ブロック1位のみが決勝に進むことができますが、1敗すれば決勝に進めない可能性があります。また、全国9ブロックの1位のみしか出場しないことから、強豪揃いでもあります。

予選リーグ第1試合は北海道と対戦、地元須賀川出身の小塩の登場とあって応援の盛り上がりは最高潮に達し、その応援を背に、北海道に圧勝しました。第2試合の岐阜県には、元世界選手権大会出場の田中がおり、苦戦を強いられることが十二分に予想されましたが、小塩がラリーの打ち合いに勝ち3-1で快勝。熊本県、岡山県にも順当に勝ち、予選リーグ全勝で、最終日の決勝戦進出を決めることができました。決勝戦の千葉県は、前評判通りの強豪で、「前半で1点取れば、何とか勝てる。」と予想して試合に臨みましたが、スピードのある巧みな攻撃パターンに振り回され、打ちくずすことができませんでした。しかしながら期待どおり、準優勝というすばらしい成績を収めることができました。

《成年女子1部》

47都道府県参加のトーナメント戦で戦うため、1試合も落とせない条件の中の試合となりました。選手は大掛美奈（前田建設）、深谷純子（青山学院大）、岡田晶子（専修大）、菊地弓子（中央大）を登録しました。ふくしま国体では、ベスト8を目標として遠征、合宿を計画的に続けてきました。

大会初日1回戦の相手は鳥根県です。予選がないブロックが多いために競技力調査が十分でなく相手チームの情報が少ないのが気がかりでした。1番岡田が2-0で勝ち、幸先のよいスタートを切り勢いに乗ろうというとき、相手のエース大菅に深谷、岡田と2点落とし、2-2の大ピンチとなりました。しかし、5番大掛が落ち着いたプレーで相手を3-2で下し見事に、2回戦進出を決めました。

2回戦の長崎県は、ダブルスを落としましたが3-1で勝ち、本県はいよいよベスト8入りをかけて

【成年女子1部】



監督
荒木 久勝
郡山ザベリオ中教員



コーチ
菊地 敏美
御館中教員



コーチ
荒井 孝芳
日東紡織㈱富久山メディカル
開発センター



選手
大掛 美奈
前田建設工業㈱相馬支店

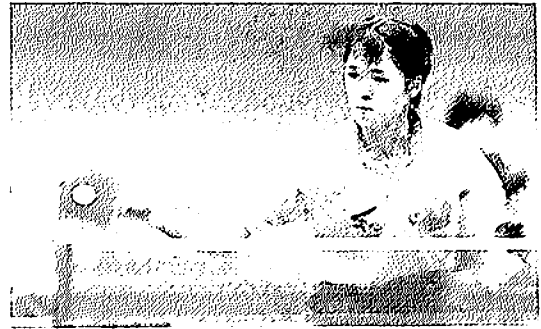


選手
深谷 純子
青山学院大4年



選手
岡田 晶子
専修大1年

北海道と対戦をすることになりました。北海道戦では、2点を取られましたが取り返して2-2とし、またも5番勝負となりました。大掛は、1セットとられたものの2セットをとり返し勝負強さを示しましたが、惜しくも力及ばず、2-3で破れ目標達成が成りませんでした。敗戦のくやしさを味わった選手達ではありますが、天皇杯獲得に向け精一杯努力した姿は、会場をうめ尽くした観衆に大きな感動を与えてくれました。



成年女子2部 東條選手

《成年女子2部》

「わかしゃち国体」で福島県の卓球が唯一入賞し、得点した成年女子2部は必勝を期し、坂本久美（いわき卓球）、東條由美（福島市役所）、伊藤恵美子（千本松毛晒工業）、今福麻美（富久山卓球クラブ）のメンバーで臨みました。それぞれのメンバーの所属が離れており、主婦も二人いる中での強化合宿は、容易ではありませんでした。しかし、国体で勝ちたいという信念は、誰にも負けないほど強く、危機感さえもって練習に励んできました。

16チームを4ブロックに分けての予選リーグでは、熊本県、滋賀県、富山県との対戦。どの県も強豪で、簡単に勝てる相手ではありませんでしたが、抜群のチームワークで予選リーグ全勝で準決勝へ進出しました。準決勝は福岡県と対戦。壮年の伊藤の安定した活躍と坂本、東條の確実なプレーで3-2で勝ち、決勝進出を果たしました。最終日の決勝戦は、神奈川県でした。1番坂本が見事に相手のカットを攻略し2-1で勝ち。2番東條も勢いに乗り2-0で快勝し、ストレートで優勝を決めるかと思わせましたが、3番伊藤は自分のペースをつかみ切れずに初めての敗戦。しかしながら、4番東條の開志あふれるプレーで奇跡的な挽回を果たし、初優勝の栄誉を勝ち得ることができました。優勝の後の選手の涙が本当に印象的でした。

【成年女子2部】



監督
斎藤 一美
セントラル住設



コーチ
植村 明美
同線システム



監督兼選手
伊藤恵美子
千本松毛晒工業



選手
坂本 久美
いわき卓球



選手
東條 由美
福島市役所

あの日 あの時

『真珠の涙を見せてくれ！』

成年女子2部監督

斎藤 一美

人生でたった一度の地元国体、卓球人生の全てをぶっつけて良い思い出を作れ、“感激”それは貴女達が監督、コーチ、観客に与える事によって、自身が感ずるものだ。

さあー、私に真珠の涙を見せてくれ！



成年女子2部 坂本選手

成年女子2部の決勝は最終日、対神奈川戦で始まった。同時に始まった福島男子2部が大激戦の末敗れ、最後に残った我チームに金メダルの期待と、地元チームの決勝戦で最高の舞台が整い、選手も観客も興奮のつぼと化した。

2対1とリードしているが四番の東條は3セット目7対4とリードされて絶体絶命、しかし得意のバッククロススマッシュが決まるや否や神がかりの大逆転劇を演じ21対18でゲームセット！選手、コーチ、観客一体となって喜びの抱擁をし、涙したあの一瞬は一生忘れられない。

選手生活を一度退いた彼女達があれ程純粋に金メダルを追いかけ最後に流す事が出来た「真珠の涙」は何だったのだろうか。

私は地元国体に出場出来るのはオリンピックに出場するよりむずかしいと力説していた。その重圧の中でも期待される心地良い責任感と、今迄にない県と協会のバックアップがあったからと確信している。

今後強い福島が永続する為には、県本部が存在する事であろう。最後に県競技力向上対策本部を始め裏方に徹してくれた協会の皆様に御礼申し上げます。

大会を終えて

種目別総合得点	1位	愛知県	145点
	2位	福島県	137.5点

という結果に、すべての卓球関係者が大満足しています。5日間の戦いは、苦しかったが、大きな感動と、素晴らしい成果を残してくれました。3年前のべにはな国体で優勝した山形県とほとんど同じ得点を獲得できたのだから。役員、監督、コーチ、選手ともに、「やればできる。」ということを教えてくれた、「ふくしま国体」を忘れることはありません。

我々をここまでがんばらせてくれた県競技力向上対策室の先生方を始め、アドバイザーコーチの富士短大の水村治男先生、多額の強化費を御寄贈していただいた福島製鋼株式会社さん、惜しくも代表になれなかった候補選手の皆さん、各種県大会で強化基金のご協力をいただいた選手の皆さん、監督、コーチ、選手の所属する企業、学校の皆様、そして、家庭であたたかく支えてくださった家族の皆様に、本当に本当に御礼を申し上げます。「ありがとうございました。」

今後は、もう一つの目的である「ふくしま国体を通過点として、継続的な強化に当たる」ことの実現のために精一杯努力していくことといたします。

(記 深谷秀三)



成年女子2部 伊藤選手

[男女総合成績 2位 137.5点]
[女子総合成績 4位 62.5点]

種別	氏 名 (所属)	1 回 戦	2 回 戦	3 回 戦	準々決勝	準 決 勝	決 勝	種別 順位
成年 女子 1部	大掛 美奈 (前田建設工業)							
	深谷 純子 (青山学院大)	○3-2 (島 根)	○3-1 (長 崎)	×2-3 (北海道)				
	岡田 品子 (専修大)							

種別	氏 名 (所属)	予 選				決勝トーナメント				種別 順位
		第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	勝敗	順位	準々決勝	準決勝	
成年 男子 1部	坂本 恵一 (日産自動車、(株)大工場)									
	原 兄 (東電東：原ノ方東電中)	○3-0 (山 口)	×2-3 (新 潟)	○3-1 (滋 賀)	-	2勝 1敗	2	-	-	5
	深谷 亮幸 (筑波大)									
成年 男子 2部	富岡 成一 (阿部商事)									
	川村 公一 (日産コナテ、(株)大田)	○3-0 (北海道)	○3-1 (岐 阜)	○3-1 (熊 本)	○3-0 (岡 山)	4勝	1	-	-	2
	小塩 浩 (須賀川信用金庫)									
成年 女子 2部	伊藤恵美子 (千本松毛器工業)									
	坂本 久美 (主婦)	○3-0 (熊 本)	○3-0 (滋 賀)	○3-2 (富 山)	-	3勝	1	-	○3-2 (福 岡)	1
	東條 山美 (福島市役所)									
少年 男子	遊佐 充裕 (小島工業高)									
	渡辺 和幸 (帝京安積高)	○3-0 (富 山)	○3-1 (三 重)	-	-	2勝	1	○3-2 (埼 玉)	×1-3 (高 知)	3
	馮 海涛 (原町工業高)									
少年 女子	藤田 山希 (安達高)									
	高橋美貴江 (安達高)	○3-0 (北海道)	○3-1 (神奈川)	-	-	2勝	1	×1-3 (大 阪)		5
	根本恵美子 (郡山女子高)									